

芸術文化創造センター第1回意見交換会（市民発言内容）

市民1：

とにかく今回、市にお任せして入札をただ見守っていただけ。それが不調に終わりがっかりしている。まず、市民の不満を聞いて下さい。それが終わってからでないといのどの案がいいかとは進めない。

市民2：

この4案はすべて増額です。この中はどれもだめだと思うが、どれか市長に提案した時に市長はのむのですか。のむということは金を増やすことですよ。言っていることがちがう。増やさないとやっている。増やさない方法で考えないとだめでしょ。最初から増額の案を出していいのか。市長はそう言っている。全部増額ですよ。

20億円の増額の理由を検証してください。単純に人件費と資材費が増えた。そうしたら、人件費が設計でいくら、資材費が単価でいくらと示してくださいよ。

まずそれを検証しないと何回やっても不調になりますよ。絶対。資材費と人件費のズレだとだいたいみんな言う。オリンピックで。資材が何立米あって、単価いくら。鉄筋がいくらあっていくら。人件費はいくらと比較して初めて出てくる。これじゃ分からない。

あくまで今の計画に対して言っている。分割のことはあたりまえ。今の物を造ることが前提。造るのを減らせば足りる。なんで増額となるのが出ているのか。

市民3：

皆さん方、都市計画図をご覧になったことはないと思いますが、赤い所で真ん中が小田原城前の地域を示している。ここはご存じのとおり商業地域です。この商業地域は珍しい。お堀端通りから国道までのこの地域全体が風致地区です。商業地域で風致地区は珍しいです。商業地域として活性化するように都市計画を考えているし、三の丸全体を整備していこうという考えが小田原にはあります。

ここにもうひとつ黄色く書いてあるところは駅前の土地であります。現在、駐車場施設が建てられていて、今年の11月から活用されます。残った部分に関して、ここに5,800㎡の土地が残ります。

この5,800㎡は駅に近いですから、直近で徒歩2から3分で利便なところです。先程、設計者の方からは鉄道の近くにはホールは造りにくく、お金がかかるとのことでしたが、私の考えは、市の土地として非常に貴重な活用ができる土地である。平成元年からずっと使われなく20数年経つ。再開発としてもめてきて、現在まで駐車場として使われてきて、このような状況となっている。駐車場用地が2,700㎡、残りが5,800㎡。ここに設計した大ホールを落とすと、このような形になる。180度転換して落とすとこのような感じとなります。

ということで、鉄道の振動は確かに大きな問題だが、貨物列車は通っているがおおかたは真夜中である。真夜中だから影響はない。日常的な鉄道も通っているが、東京ではどこでも地下鉄とかは通っている。ホールはなんら関係ない。技術的に解決できる。20億円と言う数字ではない。技術的に解決できるし、お金も解決できる。ここに大ホールを造って、73億円を増やさない。これで今回の事業は完結とする。小ホールが無いホールで完結とする。小ホールに関しては、将来的な課題として、三の丸に展示スペースと一緒に造るべき。別の計画として造るべきである。現実的にお金を増やさないでやる方法はこれしかない。

市民4：

基本的に分割案に賛成です。というのは、延期しても消費税が10%に上がるのは見えている。また、お金がかかる。ずっと待たされている。何年もだ。ここでやらないといけない。小ホールは必要ないと思う。既存の施設、生涯学習センターけやきがある。500人は入れる。そこを使って、席を階段式、収納式でもいいが、ちょっとお金がどのくらいかかるかは分からないが、既存の施設を使えばできる。

市民会館は50年以上経っている。元歌舞伎座支配人の鈴木十郎市長さんの時である。あのころの音響は日本でも有数だった。50年以上経つとかなり古い。南足柄市や秦野市の文化会館にはいいアーティストは来ているが、小田原は呼べない。分割案に賛成です。

市民5：

資料4、これを見ますとメリットが各項目1つか2つしか書いてありません。デメリットになるとすぐいっぱい書いてある。これを見て分からないでしょうか。デメリットでなくダメージですよ。これからいろいろやらなくてはならないことがある。設計者の方が言っていた市民の意見を聞きながらやる。それは、10年前に加藤市長はやっている。それをまとめきれなかったのが、今回の結果ではないか。

市民6：

進め方はやっぱり大きなところから細かいところに進めていくべき。でも、選択肢の中でどれが良い、悪いと言う話になっているので、それを始めるに先立って、その他の意見としても書いたが、選択肢の中に増額して進める、そもそも建設を止めるという2つの選択肢がないのはおかしい。勝手に決めないでください。

市民7：

今回の4つの案を考える前に、国の補助金が23億円が見込まれているとのことだが、わたしの聞いた範囲では小田原市は多額の助成を見込んでいた。要望通り見込まれなかったのは、国庫補助金の性格が、震災を受けて、中心市街地という各自治体の基礎的なものを整備する資金、贅沢な施設にはだめとなり、必要最低限の補助に見込まれるという事で23億円の補助金となった。今回、73億円で設計者の方が企画したが、実際に施工する業者の方で94億円と出た。ようは、市長が現行の予算の範囲内でやると言った限りは、どこのかの機能を削っていくという選択の中で、本日、設計者の方から小ホールを削るという案が提示されたと思っている。ただ、いずれにしても今後の分割発注の可能性があれば、結果的には同じ市長のもとに更に追加で出るとなると、これは基本的には公約違反になる。ですから、そういう小ホール自体を削るというやり方でなく、どの機能を削るという判断では、スタジオとオーケストラピットを削るべきと判断しています。それで、スタジオをどこに持っていくかということ、駅前に空いているとの話もありますから、それはスタジオを希望されている方もいるので、駅前に適当な用地があって、企画が組めるならそういうやり方もあるのではないかと考えます。

それで、設計者の方が小ホールを削った所でオープンスペースという利用ができるのではないかと提案されている。私はスタジオを削って、インドアの中でそういう風な使い方ができるなら逆にそのスタジオがあるから迷路の様な動線は障がいがある方の通行を妨げる。施設内で移動が不自由はどうか。前回の市民会館の小ホールでの説明会でも言っている。

最終的に 73 億円と何度も言い切っている。今言ったような機能がある程度設計者の方に整理してもらって、どうしても増額するなら市長が自分で決断。設計者の方も努力した、市民の意見も最低限集約した、機能も集約できた。最終的には物価上昇という理由があるのだから、予算が増額するかもしれない。最終的にトップが判断しないといけない。私の意見としては、2 次計画で小ホールを造ると公約違反の増額になるから。2 次計画はしないで、今の計画でして、どうしても増額なら、物価上昇など諸般の事情、市民の意見も聞いてやる。あとは議会の判断である。

市民 8 :

分割に賛成です。いいなと思う。大ホールは 20 年も前から建て替えが必要であった。今度は市民検討会になり、皆さんの意見を集約してやっている。建て替えというのは早く望まれていると思う。やはり、この中で一番早く実現できることが多くの市民の望みだと思う。小ホールは先程設計者の方の説明ですと大ホールで小ホールの使い方ができるということだった。それでいいのではないか。ただ、73 億円の予定が、94 億円と 21 億円の差があるのは、市の見通しの甘さであり、責任がある。ただ、市民からいろいろな要求があり、そのままとめていったら現実はどうだったということだった。現実には、市民の全部の要求を聞いたなら 94 億円でないといけないということ。検討する中で調整できなかったのは、市の責任であると思う。現実にはそれでしか出来ないなら出来る中で実現できることを考えるしかない。それには、分割工事で小ホールは後で考えるとする。増額とはならない。あとで考えればいいことだから。場合によっては小ホールは出来ないかもしれないが、現状の 73 億円の予算で小ホールを除いた中で造るのが一番いいと思う。

市民 9 :

一般市民として、何年前から計画していたのかは分からないが、今回いろいろなことで建築計画があるのを知って、意見交換会に参加しました。まず、この施設を建てたことで小田原が活性化されると本当に思っているのか。収容人数の割に駐車台数が少ない。そして、城下町小田原を売りにしていたはずなのに、都市デザインが小田原駅を降りた時点で変わっている。城下町なのか近代都市なのか、都市開発に一貫性がない。買い物は車を利用するのですが、小田原にはずっと来ていなかったのだから来るようになってびっくりしたことは多々ある。

私は学生の頃から小田原にいたので街並みを知っているが、半分城下町、半分近代都市、結果、小田原が潤っているのか、潤っていないのか。それを考慮した中でこの計画を進めないと失敗に終わると思う。

建て替えは必要だが、城下町小田原をふいにするなら、ちがう方がいい。

市民 10 :

今回、初めて参加する。市民の検討会でこの計画を練られたことを承知していませんが、4 案の中で決めなければならないのか。先程、こちらの方が 4 案以外のものを提案された。私も 4 案以外の事を提案している。そうしますと 4 案以外で検討すると主旨からはずれて時間も午後 5 時までにはとても終わらないです。前の方の発言では街づくりの話でしたが、この建物とは主旨がはずれている。そういった発言が出ると話が飛んでしまう。まず、前提に本日の主旨に沿ったもの以外は認めないとしないと時間の無駄になる。そこを進行の方をお願いします。

今回、1社入札でやっている。通常1社の入札は某市役所に勤めていた経験から分かるが、何10億円の1社入札はありえない。1社で入札したから落札しなかったことがありえる。

市民11：

この城下町ホール、市民ホールと関わってきました。当初からやはり言われてきたのは、皆が待ち焦がれていた、急いで造らなければならない。間に合わない。もう待ち疲れた。待ち疲れて、待ち疲れて加藤市長さんになって8年間。これが続いている。

入札不調になり、何故このような結果になったかと言うと。簡単に言えば市長の力量でしょう。

間違えた市長を選べばこのようになってしまうという高い勉強代。

分割という案もですね、やはりこれまで市長さんが行政の方とベストな案だと考え、設計者の方の設計力で削れるものは削って、いい案ができた。しかし、この分割案とすると、違ったものが出来てしまう。妥協の産物になってしまう。事業費も今以上に上がる可能性がある。選択肢としてベストと言い切れない。

当初の計画から街づくり全体をどうするかという考え、観光のまち小田原をどうするかという視点が8年前からなかった。就任当初から三の丸に造ると言って始めてしまったため、観光の動線、周辺の競輪場跡地、少年院跡地、駅前再開発の用地をどのようにしていくかという大きな視点を抜きにってしまったというのが、そもそもおかしくなった。

先程の方が観光の話をしたことに対しては良いことを言ったと思う。

京都では高さ制限が15mとしている地域もある。小田原も三の丸地区に31mの建物を建ててしまっているのか。やはり考え直さなければいけない。

これだけ遅れてしまったので、競輪場の方に大ホール、森の中のホールを造るといった案もあるので。一度落ち着いて。焦って失敗し続けているので、ここは腹をくくって落ち着いて焦らずにやるのが私の考えです。

市民12：

自治基本条例の制定委員でしたが、いろいろな市民協働をしました。設計者の方が最後に言ったように市民協働の形がこれから造る形で、そこでお金を作らないとこの危機を乗り越えられない。その議論をしないで進んでしまうのではまた失敗してしまうので、そこをゼロから仕切り直してほしい。

南足柄市にも同様のホールがありますが、使われていません。もっと大きなホールを県西のホールとして、県立第2県民ホールとして県レベルで大きな駐車場を持ったホールとして県西に造るような動きをしてはどうかと考えてみてほしい。

広域文化行政を作って、今あるものを再利用して、小田原が栄えるのではなく、県西で栄えるようにすべきでは。

小田原は歴史都市です。今の位置は歴史都市としては貴重。観光都市として造っていくには貴重なところですから。もう一度歴史都市としていくか近代都市としていくか考える。近代都市としては市民憲章の中にある。西湘の近代都市として限らない発展はみんなを引っ張っていく。自治基本条例も制定し直す。全体としてもう一度そのレベルから仕切り直しし、やり直して、もう一度やるのが一番近道と考えます。

市民 13 :

私はずっと最初から、城下町ホールの時代からこのホールに関わってきた。設計者の方が本当に市民の立場になってやってきたことは感謝しています。

先程の方が言っていた駐車場の件は、作らないことをコンセプトとして始まっています。来る人は周りの駐車場を使いましょう。駅の傍だから余韻をお城まで、余韻を感じて帰ってもらってというはずで

す。観光にも当然おっしゃったようにし、歴史も感じられるものにしていこうと、拠点であるとし、芸術文化はいろいろなものがある。なりわい、箱根細工などいろいろな話があってここまできた。

それを実現できますよ。ギャラリーで子供たちの工作もできる。市民会館の展示室の機能ではいけないとずっと頑張ってきた。ひとついけなかったのは管理運営の費用ですね。城下町ホールの時に30年経過すると建設費と同じくらい費用がかかると聞いた。経費がかかるんです。金食い虫の施設なんです。どうやって市民が使うか、市民が使うから安く感じられる。東京まで行かなくていい。交通費をかけなくても安い値段で見られる。平塚や茅ヶ崎まで来るが、小田原まで来ない。

パリ祭を聞かせてもらった。小田原フィルハーモニーも聞いている。2階席のいい場所を教えてもらった。良かったのですが、アーティストの声がひどかった。市民会館はそういうホールになっている。

直しても21億円と言っていたが、設計者の方は36億円位と言っている。とんでもない。ドブに捨てるようなもの。

分割で、小ホールを後で本当に皆さんがほしいと思った時にお金を作って造ればいい。運営を私たちに任せてほしい。

ずっと検討していたが、人がだんだんいなくなった。

そういうことがあったので、そういう思いを今度のホールの運営でカバー出来るように頑張りたい。大スタジオとかは、けやきのホールをロールバックにするなどして、いろいろやってほしい。市の方に聞きたいと思った、市長の考えも聞きたいと思った。

本当に心血を注いだものを今日来た人にいろいろ言ってほしくない。本当に頑張ってきた。皆さんも苦労、いろいろな考えもあると思うが、長くやってきたことを言いたかった。私たちが頑張ってきたことを認めてほしい。

市民 14 :

小ホール、ギャラリー、カフェ等の市販ブースをセンターに造って、大ホールを商工会議所の傍に建設する。商工会議所の1階を大スタジオとギャラリーにする。

商工会議所と大スタジオはおかしいかもしれないが、各種試験会場など防音設備が商工会議所には必要。そういう利用も可能かと考えている。

市民 15 :

私は3月の説明会が最後かと思っていたが、自分の仕事を切り捨てて来ました。

まず、市の方に聞きたいのは、設計者の方は入札不調によってどういう立場にいるのか。今日、これだけ時間を割いて説明したが、今日は市民の意見交換です。一方的な案ばかりがずっと出ている。設計者の方の考えは分かります。今日の説明は言い訳か言い分のどちらかです。

要するに、みんな市民の声を聞いた、設計者の方はずっと努力して目一杯造った、だからこうなった。

最後は完璧でなくて、ものを作るのには余白が必要。余力が必要。それがなくして図面を用地の中に全部造った。全部指摘してきた。救急車両はどうか。非常階段はどうか。車寄せはどうか。それを積み上げたら膨らんだ。私は65億円で消費税などをいれて73億円となった時に、80から85億円かかると言った。まさしくそのとおり。私は議会にも言った。こんなはずじゃなかったと言わないでくれと。止むを得ない、仕方ない。そのような陳情書を出して否決された。

ものすごく時間というものをロス。市長は市民の声を聞くと言って、都合で今日は聞けないが、いつ聞くのか。

また、ランニングコストはいろいろな面がある。市民全体の税負担、高齢者福祉などお金がかかる。そういうことを含めて市民として意見を言ってきた。それが実現されなかった。当たり前ですよ、私は想定外ですから。

市長は2度ばかり白紙にしている。斎場の問題、小澤市長の時代のホールを白紙に。2度あることは3度あることから、白紙に戻して、市民がどれだけこのことに真剣に、再スタートして、どういうものが必要なのか、どこの土地にどのようなものが必要なのか考える。二宮尊徳の教えだと身の丈にあったもの。設計者の方も言っていた。

説明会で市民の皆さんがもっと検討してください。と警告を投げかけてきたらそれが不完全のまま来たんですよ。それは誰なんですか。一部の市民の意見の声だけで集約してきた。

私が言いたいのは、白紙に戻し、市民の皆さんともう一度再スタートして考え方を直す。それが何よりではないか。

市民16：

一番ベースにあるのは、市民会館、文化ホールという機能が必要かどうかということ。それで、我々が考えなければならないのは時間を考えなければならない。東京オリンピックは建設費その他で影響がある。我々が市民文化会館、ホールが必要でないなら、今のホールを潰してもかまわない。今のホールを潰さないで使うと考えると、先程、20数億円との説明があったと思うが、古い機能をそのままいいパフォーマーが来ない。いいパフォーマーが来る設備が必要なら30数億円かかるかもしれない。

そうするか、それとも新しいホールを造るかとなった時にひとつ時間軸を考えないといけないのは、交付金です。交付金で23億円はたぶんこの時を逃すと東京オリンピックなど諸々の事情で全く出ないだろう。風説かもしれないが、首都高速に一旦トラブルが発生するとそこに建設業者が集中する。何も出来なくなる。その状況で今を逃すと出来ないと思う。

設計を見直ししてやるといったら設計者の方の範疇であると思う。設計を見直した場合、タイミングが間に合うかどうか。完全に見直すとタイミングに間に合わない。交付金のタイミングは時間がない。

おそらく小ホール分割案になると思う。市長の予算の考えは分からないが、今年度の予算なら小ホール分割で間に合うのではないか。

小ホールは第2期と考えた時に出来るかどうか。東京オリンピック後では、お金が文化には回らないと考えるべき。今を逃すと出来ない。それらを踏まえて、今どうするかと考えなければならない。

私は、小ホール機能は照明とか考案しながら大ホールで使えるという、城下町ホールとはまったく違うホール・イン・ホールという考え方もある。そういう運営がお金かけないで出来る。

小ホールを切り離す設計は大きな変更もなく、タイミングが間に合うとなると、現実的な考えではないか。

市民 17 :

市民委員として 2 年近く参加した。全部は出席していないが、素晴らしい意見が出ました。設計者選定のプロポーザルの際に市民委員の一人として参加しました。

まず、やるということであれば、大前提として 2 重投資はしない。ダブルスタンダードを絶対やめてほしい。これを無しにすると全部バブルとして水の泡というか、やっぱり、ポジティブにやろうとし、皆さんの意見を聞いて太ってしまった。あれをやらなければいけない、いろいろな数字が重なった。もっとスリム化してやるなら予算内で出来ると思うので、その方向性でやるべき。

大事な席に加藤市長が来ないのはどうか。税金を払っている。こういう席に来てもらわないと我々の意見が直に反映されるかと甚だ疑問であるので、是非、このような席に参席してもらいたい。

市民 18 :

小田原の音楽に係わって約 30 年。その中で小田原楽友協会が発足して今年で 20 年になります。小田原でプロの音楽家の演奏会をということ年で 4 回開催しています。会員制で会員に毎月 1,000 円の会費を払ってもらって運営している。市からは一銭ももらっていません。

世界で活躍する演奏家をお呼びして実際に演奏して、この演奏会をやるにはいろいろ障害がありましたが、こういった音楽家、小田原市近隣に住んでいる音楽家の皆さんのご協力もありましていろいろな音楽の分野の方からご協力いただいているが、そういう中で、現市民会館で演奏するのは音響はある程度良いが、その代わり楽屋は汚い、トイレは少ない、そして、設備が整っていないとかなり言われている。

一方で、もう一つ小田原市民による小田原音楽フェスティバルをやっているが、今年で 10 年経ちます。市民の合唱団を募集して、毎年、著名な指揮者をお招きして演奏会をしているが、それも 10 年経ちますが、ホールが狭いためにレパトリーも限られてきてしまっている。これは、市の助成を得て応援イベントとしてやっている。いずれにせよ、私たちは市民ホールを早く造ってもらいたいと活動している。そういうことで、今回の 4 案では分割案に賛成します。一日でも早くホールを造ってもらいたい。将来的には小ホールも整備してもらいたい。

市民 19 :

芸術文化創造センターのことも、市長さんご自身が立候補した時に約束した事でしょ。違いますか。それで、一生懸命やってくれていると思っていましたが。私も 1 票投じたひとりです。

だけど、設計者の方がこれだけ一生懸命市民のために要望に沿った建物を造ってあげたい気持ちでこの場に来ている。なのに、文化部長だけでいいのか。市長がなぜこの席に来ない。皆さんどう思いますか。投げやりもいいところだよ。

市民 20 :

障がい者の立場から言うと、友達なんか聞くと、とても楽しみにしている。ほかの健常者の方にも市民は楽しみにしている。私は分割案に賛成ですが、是非、この時期に造っていただきたいというのは思っています。

市民 2 1 :

ずっと聞いていまして、なんか今日は意見交換会というよりも設計者の方のプレゼンだったような気がしてしょうがない。すみません素直に感じております。設計者の方の説明の中ですごく気になったことが2つあります。

ここまで広げる必要があったのか。これは何を広げる必要があったか、設計者の方が何を考えていたのか。もう一つは大スタジオを切りたかったとの話が先程の説明の中でありましたが。この2点について、ちょっと説明とそれとも含めたものを実際に設計者の方が見た時にどう思っていたのか。

市民 2 2 :

3年間か4年間関わって来ましたが、議論とかを聞いて、実際にコストの問題とかはみんな意見を言ったが、40何人スタッフがいるというのはほとんど議論されてなかった。一切。僕たちもあれがほしいとみんなで言うじゃないですか、ただ、その場で市も設計者の方もプロだったら、はっきりお金の事を考えないでそのような形でやっているというのは無用な議論だったのではないかと非常に思う3年間だ。

はっきり言って、そのコストのところを何故、それで人件費かかりますよと言えば、市民委員の人もバカではないから、それは仕方がないと諦めた可能性もある。

最初のころ言ったが、今現在の小ホール、大ホールの稼働率、今どのくらいかどうかという議論が少なかった。

設計者の方がおっしゃったが、まちの中のいろんな食のイベントは、はっきり言って小田原ではすごくいっぱいやっています。他の地域と比べても。ここでも出来ると思うが、ハルネも出来てイベントだらけ。それでもここに来るのはあると思うが。

無駄だったと思うのが、3年間話していてコストの問題とかなくて、中身の問題だけで、出来た後の金額の話すら出ていなかった。それがあつたらもうちょっと考えましたよ。

その話の進め方はこれまでの過去はしょうがないから、今からちゃんと進めて下さい。そうしないとちゃんと進めないと分割してまた入札してできなかつたら、それこそお粗末になると思います。

市民 2 3 :

私も楽友協会を立ち上げまして、その前に商工会議所の青年部、オーケストラのコンサートもやってきた。小田原の文化を考えた時に音楽文化をもっともっと日本国中に広げたいと、そして、小田原に来てもらって、箱根に泊まって、そういった活性化のために施設が必要と当時は市民会館でしたが、せっかくここまで来た話で、予算がオーバーしていますが、皆がいろんな知恵をしばってここまで持ってきたので。これ以上二転三転はしない。小田原評定が意識の中にあると思う。そうでなく、ここは踏みとどまって進めてもらいたい。分割でもいいと思います。とりあえず分割で大ホールを造ってもらって、小ホールはけやきにもありますし、地ならしして皆が使いやすいようにして、そういうことで踏ん張って進めてほしい。

市民 2 4 :

いろいろな方からメールをいただいたり、いろいろな情報を持っていましたが、今日参加して良かったと思ったのが、市民の皆さんのいろいろな真剣な要望に対して、設計者の方が本当に真摯にいろいろな努力をなさったんだと直接ご本人の口から聞いて理解を深めることができたのは良い機会だった。

それに対して、それを全部したらいったいいくらになるかという議論が検討会の中であまりに少なかったと聞いて、ちょっとオリンピックの新国立の価格の問題を思い出したが、例えば分割を進めるとか、小田原のまちの元気になるようなカンフル剤のきっかけとしてホールが出来ることをずっと望んでいましたし、小澤市長の時代の設計でなくて、もう少しシンプルな形で、あの後すぐに造ってしまえと、用地を拡張しないでと私はずっと意見を持っていたが、残念ながらそうはならなかったのは残念ですが、皆さんの努力も無視しないでいくと言うのは賛成です。しかし、それをするにあたっては今回の事で得た教訓はデザイン、設計、そして、どういう機能を持つかということとどのくらいお金がかかって、私たち市民のお金がどのように使われるのかがリンクされて、例えば分割してもいきなり小ホールをバツサリ切るのではなく、何を残すのか諦めるのか、丁寧な議論が必要ではないでしょうか。そういうことのリーダーシップを取ってやるのが市の仕事、お金を管理しているし、委ねているのだから。あるいは市議会のチェックとかそういうことをきっちりやる、現実的にやってもらいたい。改善がないと同じ繰り返しになる。

市民 25 :

私はお客様に 3 億円から 10 億円の提案をする仕事をしていますが、全体のお金だけでなくランニングコストも提示している。今回はランニングコストについて提示していただきたいのが 1 点。私は 36 歳でこの子は 0 歳ですが、この施設はこの子が利用していくことになると思う。なので、もしよろしければこの子たちがいるような場所に行って、ヒアリングをしてもらうような機会を設けてもらえるといいなと思っています。よろしくお願いします。